

「自治力UP」推進協議会・専門部会（第2回）

日時 平成20年3月25日（火）
午後3時30分～5時30分
場所 区役所11階第三委員会室

次 第

1 開 会

2 委員の紹介

3 議題

安心・安全ナンバーワンの実現について

（1）地域社会の防災組織と協働の現状について

（2）協働の仕組みづくりについて

（3）その他

4 閉 会

「自治力UP」推進協議会・専門部会（第1回）の課題等の整理

1 各団体等における協働事例

- (1) あたたかい人づくり
 - ① 青少年健全育成事業（親子キャンプなど）
 - ② 寺子屋事業
 - ③ おとしよりの見守り
 - ④ おとしよりと小中学生との交流事業
 - ⑤ 介護予防・健康体操
- (2) 元気なまちづくり
 - ① にぎわいのあるまちづくり事業
 - ② 東京・荒川市民マラソン
 - ③ 板橋区民まつり
 - ④ 板橋産業見本市
 - ⑤ いたばし花火大会
 - ⑥ 大江戸舞祭
 - ⑦ ものづくり（ジョブ・シャドウ・デイ）
- (3) 安心・安全
 - ① 防災訓練・防災活動
 - ② 清掃活動・環境行動

2 協働事例の現状と課題

- (1) あたたかい人づくり
 - ① 関係づくりの視点

現状・課題
青少年健全育成事業は、学校・家庭・地域が協力しないと成り立たない。
親子のコミュニケーションが薄れている。
青少年健全育成事業への保護者の理解・協力が不足している。
防災活動・清掃活動に児童・生徒がもっと参加してほしい。
P T Aへの参加者が少ない、役員のなり手がいない。
放課後子ども教室が始まると、今まで以上に地域での連携が必要。
元気な高齢者が多い。地域における昼間の主役は高齢者である。
団塊の世代の男性は老人クラブに加入しない傾向がある。
団塊の世代は職域人間であり、地域社会への入り方がわからないのではないか。
ボランティア・N P O団体は、長い間、行政と連携してきた団体等ができないすき間を埋めている。

現状・課題
70歳以上の高齢者全員のお宅に、民生委員が訪問して敬老入浴証を配付している
民生委員を町会長が推薦する仕組みのため、民生委員に欠員が生じている

② 行政の見直しの視点

現状・課題
単身高齢者の孤独死対策において、個人情報の保護が障壁となっている
民生委員の数が不足している

(2) 元気なまちづくり

① 関係づくりの視点

現状・課題
商店街の店主が高齢化している
空き店舗が増えている
各商店に従業員が少なくなっている

② 行政の見直しの視点

現状・課題
産業連合会は区の事業の代行が多い

(3) 安心・安全

① 関係づくりの視点

現状・課題
町会の加入率が低下している
団塊の世代の男性が町会に加入しない傾向がある
防災訓練等意識啓発事業を学校と地域が別々に行っている
災害時に最も基本となる団体は町会・自治会である
子どもの安心・安全を地域で確保するように努めている
月1回、各支部長（18支部）が集まって会議を開催している
梶山町会は、商店会と老人会に必ず声をかけている
工場が多い板橋区では、工場のマンパワーは災害時に必要

⇒ 各団体等に共通する「防災」にテーマを絞って協働における課題を検討してみる。

地域社会の防災システムの現状と課題

地域社会の防災組織

地域防災組織の中心

住民防災組織

- 210組織 各町会・自治会を母体
- 住民の避難誘導や消火・救助活動

区民消火隊

- 40隊、震災時における避難道路周辺の火災の鎮圧

消防団

- 板橋消防団（8）、志村消防団（10）
- 市町村に設置される消防機関

地域センター

学校（避難場所） 農地（避難場所）

災害ボランティア

- いたばし総合ボランティアセンターが育成（登録者数：40名）
- 平成20年度ボランティア講座受講者数：35名

自衛消防隊

- 一定規模以上の事業所に設置

- 高齢化（住民防災リーダー：平均年齢68歳）
- 町会・自治会の組織率の低下・マンションの不参加
- 住民の関心が薄い

「協働の仕組みづくり」

地域社会の多様な団体が、安心・安全なまちづくりを実現するために、三つの視点から、協働を進めていく場合の課題等について検討する。